

～教頭会研修で王寺北義務教育学校を視察～

御所市教育委員会では、今年度の教頭会の研修の一環として、6月24日（火）に王寺町立王寺北義務教育学校の視察を実施しました。視察には市内小・中学校の全教頭が参加し、令和4年4月に開校した新しい義務教育学校の施設や教育環境、運営の工夫について学ぶ貴重な機会となりました。

王寺北義務教育学校は、王寺町内の小学校2校と中学校1校を再編し、義務教育学校として王寺中学校の敷地に新校舎を建設して開校した学校です。4階建ての校舎には、1年生から9年生まで約1,000名の児童生徒が学び、多様な学年が自然に関わり合える仕掛けが随所に施されています。教室には電子黒板が完備され、エレベーターも設置されており、子どもたちが安心して過ごせる環境が整っています。

視察では、吹き抜けのある開放的な廊下、大階段、各階に配置された教師ステーション、メディアセンターや多目的スペース、相談室などを見学。子どもたちの主体的な学びを支え、教職員が連携しやすい構造になっていることが随所に感じられました。特に異学年が自然に関わる場面や、日常的にICTを活用した授業の様子に多くの教頭が注目していました。

視察に参加した教頭からは、「どの場所においても子どもの姿が見え、先生方の目が行き届いていることに驚いた」「学年を越えた交流が日常的に行われていて、子どもたちが自分の居場所を感じながら過ごしていた」「教師ステーションが各階にあることで、教員間の連携や情報共有がスムーズに行える工夫がされていた」といった感想が寄せられました。

教育委員会としても、今後の学校づくりに向けて、現場の管理職が他校の先進的な事例を直接見て学ぶことは大変重要であると考えています。今回の視察を通して、教頭一人一人が自身の学校の教育活動を見つめ直し、御所市における新しい学校づくりに向けた意識をより一層高めることができました。今後もこうした研修の機会を重ねながら、よりよい学びの場を目指してまいります。

